

JEACS

福音讃美歌 ジャーナル

2016.11 vol.22

Japan Evangelical Association
for Congregational Singing

インタビュー 立教大学 スコット・ショウさん

編集部 (E) 先週の土曜日 (9/10)、立教大学のチャペルで行われた賛美歌学会大会のプログラムに、聖公会の式文を用いた礼拝があったのですが、そこで、私は生まれて初めて、礼拝の中で跪いて祈るという経験をしました。

スコット・ショウ (S) 自分が罪人だという風に感じたのではないですか。

E 跪くという行為を通して、そのことを実感しましたね。

S 最近、聖公会でも跪かない教会が多くなってきました。

E 異文化と言っても失礼かもしれませんが、とても新鮮な体験でした。今まで知らなかったところにも神学的に大切な意味があることを感じました。

S 私は、最近、聖公会ではない教会で、カジュアルな礼拝を経験しましたが、そこではメッセージに集中して、じっくり考えることができました。これは私にとっては新鮮な体験でした。

■ゴスペルと社会

E ところで本棚に面白い本がありますね。メイヴィス・ステイブルズの伝記ですか？

S ゴスペルの授業もしていますからね。私はザ・ステイブルズ・シンガーズが大好きです。彼らは公民権運動の時に重要な存在でした。お父さんの弾くブルースギターもカッコイイです。

E 彼は本当にブルージーなギターを弾きます。彼らのスタイルはユニークですね。

S 南部ブルースのスタイルを、シカゴに行っても変えないでゴスペルに取り入れた。マーチン・ルーサー・キング牧師とも関係が深く、公民権運動の時はセルマの行進（血の日曜日事件）をそのまま歌詞に取り入れました。授業で学生にビデオ見せて、歌詞の説明をするとすぐに分かります。

E 公民権運動というと「ウィ・シャル・オーバーカム」も有名ですね。

S その歌は子どもの頃、モンタナの小さな町の教会で良く歌いましたが、当時はあまり意味の無い歌だと思っていました。白人は黒人のことを理解していなかったし、子どもの頃には黒人を見たことさえなかった。けれど、黒人たちにとって、この歌には自由を求める大きな意味があります。白人の教会では、どちらかというトレンディーな歌として歌ってたように思います。

E ピート・シーガーや、最近ではブルース・スプリングスティーンなんかも歌ってますね。

S でも、今のアメリカは湾岸戦争やイラク戦争でオーバーカムできなかった。アメリカにも政治的にリベラルな人は沢山いますが、右と左では話し合いもできない状況です。

E 対話ができないという点は、日本も同じです。

S 去年の夏は、学生の中にも政府に賛成の人と反対の人がいました。立場が違うという理由だけで礼拝に来なくなった人もいます。互いに話し合うのではなく、すれ違ってしまうのはとても残念です。

CONTENTS

	頁
・インタビュー スコット・ショウ	1
・編集作業の道のり 第7回 中山信児	4
・讃美歌セミナー・レポート 桜井純子	5
・新理事長に選出されて 小川宣嗣	6

■生い立ち

E 先ほど、モンタナ州の名前ができましたが、どんなところですか。

S アメリカの北西部、アイダホの東がモンタナ州です。とても広いけれど山と砂漠が多く、人口は100万人足らずで人々は保守的です。私はリビ（Libby）という町で育って小学生の時にシアトルに引っ越しました。最初に覚えている教会はリビの長老教会で、家族で熱心に通っていました。

E そして、今は聖公会ですよ。

S シアトルに移ってから、引っ越しが重なって、教会生活も不安定になり、信仰的にも迷っていました。そんな時、高校の先生がオルガン好きの私に、シアトルの聖公会の大聖堂に行くことを勧めてくれました。そこで典礼とオルガンと聖歌隊に触れ、ここが自分の居場所だと感じました。大聖堂は遠かったのですが近くの聖公会に行くことにしましたが、信仰を失うかもしれない時期に、音楽によって救われたとも言えるような経験でした。だから、今でも音楽の力というものを感じます。例えばイギリスの古い教会に行くと、美しい音楽と典礼、良い説教と聖書朗読にふれると、そこに自分の居場所があると思う。同時に、東北の小さな教会に行くと、立派な会堂や整った音楽がなくても、同じ信仰があつて、同じ礼拝を献げていることが分かります。

■日本の教会のことなど

E 確かに礼拝や讃美は、クリスチャンにとって、とても大切なものですね。ところで、先生はいろいろな教会を見ておられますが、日本の教会について何か感じることはありませんか。

S 日本では、キリスト教がマイノリティー宗教であることを強く感じます。アメリカがキリスト教国だとも言えないですが、僕らの若い頃には、みんなどこかの教会に当然行っていました。日本では、教会には当然行かない。日曜にも店が開いているし、クリスマスにも仕事がある。まるで教会が存在しないかのように社会が動いていることに驚きました。その中で、小さな教会が少人数で頑張っているのは尊敬します。ただ少人数だから外の人が入りづらい状況があるかもしれません。

E 社会に開かれるよりも、自分を守って閉鎖的、保守的になってしまうということでしょうか。

S そうかもしれませんが判断は難しい。外から来ると、最初は自分のことしか知らないし、自分は正しいと思う。けれども長くいると、必要だからそうなっていると思えるようになってきます。

E 日本には何年ぐらいおられるのですか。

S 九州に13年、立教に15年で合計28年です。その間、長期に日本を離れたのは2009年に研究休暇で2ヶ月半イギリスに行った時ぐらいです。

■研究テーマ

E ご自分のアイデンティティとしては、先生は研究者ですか、それとも演奏家でしょうか。

S 教会音楽家ですね。必要に応じて研究もするけれど、いわゆる研究者ではなくて、音楽を創る者として生きています。ケンブリッジでも、図書館で毎日座って論文を書くよりも、聖公会の教会で聖歌隊の練習に参加している方が生き生きしていました。

E イギリスでは、どういうテーマで論文を書いたのですか。

S ケンブリッジの19世紀のコラール音楽のリバイバルについて研究しました。18世紀のイギリスでは、有名な大聖堂でも礼拝が低調で、司祭の意識も低く、聖歌隊も停滞していましたが、19世紀になって、そこにリバイバルが起きました。「エクレジオリジスト」（The Ecclesiologist）とい



スコット・ショウ（Scott Shaw）

アメリカ、シアトルのワシントン大学においてオルガンとハーブシコードを学ぶ。ニューヨーク州、ロチェスターのロチェスター大学イーストマン音楽院にてオルガン、合唱指揮法、音楽史を学び1987年に修士号、1991年に演奏修士号を取得。1989年から2002年まで長崎活水女子大学音楽学部教授、同大学及び短期大学チャペルオルガニストを勤める。アメリカ、イギリス各地及び、日本国内ではソロオルガン・リサイタルを行う。2002年CD「長崎・活水学院ノアックオルガン」収録。指揮者としては、特に英国国教会音楽の聖歌隊宗教音楽を専門とする。16世紀から21世紀に至る作品を立教大学チャペル聖歌隊の活動を通して研究、演奏する。現在、立教学院教会音楽ディレクター・諸聖徒礼拝堂聖歌隊長、及び立教大学文学部キリスト教学科教授。立教大学教会音楽研究所長。

う雑誌があって、教会建築、礼拝、オルガンなどのあらゆる分野の学者が手をつないでゴシック様式の復興に取り組みました。間違いや行き過ぎもありましたが、コラール音楽のリバイバルもその流れの中にあります。

E オックスフォード運動の影響で、すべての讃美歌の末尾にアーメンが付けられるようになったのもその頃ですね。歴史的にも根拠の無いことなので、『教会福音讃美歌』では、作者が付けたものの以外、アーメンを外しましたが、「なぜ外したのですか」と今でも尋ねられることがあります。

S 長い年、間違えて付けていたのですから、外して良かったと思います。どの時代のどんな讃美歌にも同じような2コードでアーメンをつけるのは不自然です。それに、歌詞がどんな内容でも一律にアーメンが付くというのもおかしい。これらの理由だけでも説明できます。

E 福音派の場合は、中田羽後が『聖歌』でアーメンを付けなかったので外しやすかったですね。『聖歌』といえば、少し前は、日本でも手を叩き足を踏みならしながら歌うところもありました。

S 黒人教会のような音楽のパワーを感じますね。アメリカでは公民権運動があって、法律は良くなったけれども、今でも黒人の扱いと白人の扱いがまったく違います。だから彼らは礼拝や讃美に励ましや力を求める。最近では警官が黒人を射殺する事件も起きていますが、白人の中には悪いことをしたから当然だという人もいます。自分の国のこういうひどい所を知るのは本当に残念です。

■聖歌隊指揮者として

E ところで、学生たちの聖歌隊を指導するお仕事は、先生にとってどんな意味がありますか。

S そのために生きていると言っても良いぐらい大好きですね。合宿の時期も一年で一番楽しいです。彼らの素直で一生懸命なところが好きですね。毎日練習があってもいいと思っています。



E 羨ましいですね。聖歌隊のメンバーで礼拝に出る人、洗礼を受ける人はどれくらいいますか。

S 大学の礼拝には結構来ています。卒業後は、洗礼を受けていない人は来れなくなりますが、洗礼を受ける人が毎年何人かはいます。私と同じように、良い音楽、オルガンなどに感動して、ここで信仰にはいる人もいますが、永遠にここに通えるわけではないので、それだけだと卒業後に離れることもある。でも、また何十年後かに戻ることもあります。

E そういう話は良く聞きます。その意味でもミッションスクールの働きは大切ですね。

S その通りです。ミッションスクールということばはアメリカでは使わないので、日本に来たときは「宣教師が創ったからミッションスクールなの?」と、変な感じがしていましたが、今は、大事なミッションを受け継いでいるからミッションスクールなのだと受けとめています。

■教会福音讃美歌のこと

E 先生と聖歌隊の皆さんには『教会福音讃美歌』のCDでご協力いただきましたが、『教会福音讃美歌』について、何か感想やご意見などありましたら、お聞かせください。

S 福音派のことばの流れや語彙、主張するところが聖公会の歌集と違って、とても新鮮で良かったです。学生たちにも説明しやすかったですね。良い音楽を歌わせてくださったことも感謝しています。福音派が自分たちにとって良いものを作ろうと努力していることは嬉しかったですね。

E 私たちにそのような動機を与えて、背中を押してくれたのは『讃美歌21』や『日本聖公会聖歌集』、そして、その背後にある日本の讃美歌集の伝統でした。

S やはり神様に献げるものは、讃美歌でも教会様式でもベストでありたいですね。そういう意味で頑張っている人がたくさんいて、日本の教会の将来に繋がっていくと思います。

E そうありがたいものです。いろんなところで頑張っている人たちが出会って、互いに手をつないで協力することができれば、本当に素晴らしいと思います。今日は、ありがとうございました。

福音讃美歌協会 讃美歌委員 中山信児

1. 歌詞の翻訳

さまざまな資料を参照しつつ選ばれた讃美歌の大半は英語の作品です。日本の讃美歌集から選ばれた日本語の讃美歌も、最初から日本語で創られたものより、英語、ドイツ語などの外国語で創られた讃美歌の方が多いのです。そこに、翻訳という課題が浮かび上がってきます。詳しく論じる前に、状況を整理しておく必要があるでしょう。これまでのプロセスで選ばれた讃美歌は、歌詞の翻訳という視点から以下のように分類することができます。



- A. 最初から日本語で創られた讃美歌
- B. 英語、ドイツ語で創られた讃美歌
 - i. 邦訳のある讃美歌
 - ii. 邦訳のない讃美歌
- C. その他の言語で創られた讃美歌
 - i. 邦訳のある讃美歌
 - ii. 英訳、独訳のある讃美歌

A. についてはオリジナルのままですることが選択の前提となりますので、当然、翻訳は不要です。また、オリジナルを改変することは、著作者の意向を無視して行うことができませんから、かなり良い作品であっても、どこかに看過できない難点があれば、その作品を採用することはできません。ただし例外があります。著作者と交渉ができる場合は、変更の希望を伝えることができます。著作者が、こちらの希望を受け入れてくださるならば、採用することができますが、受け入れていただくことができず、不採用になったケースもあります。

B. については、邦訳のある作品は、それが使えるかどうかを吟味し、使えない場合には新たな翻訳に取り組みます。これは、元の訳詞に手を加えるという意味での「改訳」というよりは、まったく新しい翻訳、すなわち「新訳」と理解した方が良いと考えます。

良い讃美歌であれば複数の邦訳があるものも稀ではありません。その場合は、既存の邦訳をすべて比較検討し、最善のものをチョイスします。既存の邦訳の中に、使えるものが無いと判断された場合は、新しく翻訳に取り組むことになります。

邦訳が無くても、旋律、内容の素晴らしい作品もあります。そのような場合、オリジナルは良くても、どんな歌詞になるかは未知数ですので、まず翻訳が可能かどうかを吟味します。つまり、試しに訳してみるのです。実際に取り組むことなしに翻訳の可否を判断することはできません。そのようにして取り組んだけれども目の目を見なかった文章は数百行にも及びます。そして、翻訳が出来そうな手応えがあれば、本格的に翻訳に取り組むことになります。

C. には、古典語の他に、アジア、アフリカ、北欧、南欧等の諸言語で創られたものがあります。これらをオリジナルの言語から翻訳することは我々の手に余ることです。すでに誰かの手で翻訳が為されている場合には、その訳を吟味します。その場合に助けになるのは英語やドイツ語の翻訳です。しかし、それらが間違っている可能性もありますので、結局のところ、日本語の讃美歌として成立しているどうか、という視点で吟味し、評価することになります。

讃美歌セミナー・レポート



日本福音キリスト教会連合
たまプラーザキリスト教会員
桜井純子

去る7月31日（日）、たまプラーザキリスト教会にて「賛美を考える」というテーマで学び会が行われました。講師の先生には、事前に私たちの方から「このような質問があります。このようなお話をしてください」等、色々と希望をお伝えしました。先生はそれに沿って準備し、丁寧にお答えくださり、大変充実した学び会となりました。

私たちの教会には「賛美スタッフ」というチーム（牧師夫妻、奏楽者、賛美に重荷を持つ者で構成されている）がありますが、今回の学び会は、教育部が主催し、賛美スタッフが協力する形で実現しました。私自身、賛美スタッフとして、また奏楽者として、礼拝賛美の実際における疑問や悩みを少なからず抱えていましたが、明確なお答えによって、いくつもの霧が晴れる思いでした。

学び会ではまず初めに「賛美とは何か」という根本的なことを、聖書からお話いただきました。「賛美とは、神の聖さをほめたたえるもので、自分の冠を投げ出して御前にひれ伏し、栄光を主にお返しすることが、賛美する者にふさわしい姿勢である」と、黙示録から教えていただきました。

また、人それぞれ好みの賛美があり、礼拝が終わるとその日選ばれた賛美に対して色々な感想の声が聞かれるのですが、「音楽の嗜好の問題や、何を喜びどこに響くかという多様性はあって当然だが、そのことが対立を生まないように。最も良い解決法は、隔ての壁を愛によって越え、愛をもって互いを受け入れること」というお話に、大切な気づきを与えられました。

讃美歌の歴史や、『教会福音讃美歌』ができた背景などについても、大変興味深いお話を伺うことができました。私たちの教会でも、『讃美歌』、『聖歌』に慣れ親しんで育った方は多いのですが、どちらもできてからすでに60年くらいたっています。聖書の言葉が私たちの信仰の言葉になるのですが、聖書の翻訳も改訂され、今は文語で祈る方もほとんどいないことを考えるならば、同じ旋律の賛美の歌詞が、若者にも新来者にもわかる現代語の歌詞に変わることも、ごく自然なことなのだと納得できました。そして、福音派の身の丈にあった讃美歌集の必要から、多くの先生方の祈りとご労の末に生み出された『教会福音讃美歌』の存在が、ますますありがたく、さらに愛おしくさえ思えてきました。

過去にこの「福音讃美歌ジャーナル」誌上で、他教会の讃美歌セミナーレポートを拝読し、ぜひ自分の教会でも中山先生をお呼びしたいと強く願った私が、今こうしてまた賛美の学び会の恵みを皆様にお分かちできたことを、大変光栄に思います。このような会の開催を、心から皆様にお勧めいたします。

♪ あなたの教会でも讃美歌についてのセミナーや集会を企画してみませんか。

礼拝説教、伝道会、修養会、讃美についての学びやセミナー、音楽奉仕者の研修や講習などに、福音讃美歌協会の理事、讃美歌委員を派遣いたします。ぜひお招きください。

- ・ 謝礼、献金等についての定めはございませんので、すべて教会にお委ねいたします。（講師の交通費については実費分のご負担をお願いいたします。）
- ・ 『教会福音讃美歌』（小型版）を無料で貸し出しすることができます。100冊まで。返送分の送料（都内）のみ、ご負担ください。
- ・ いずれも、お申し込みが重なった場合、ご希望に添えないことがあります。
- ・ 内容、日時、講師などについては、下記までお問い合わせください。

お問い合わせ：info@jeacs.org Tel.03-5341-6920 Fax.03-5341-6921（いのちのことば社内）

「新理事長に選出されて」 ～ご挨拶とお願い～



イムヌエル綜合伝道団
聖宣神学院キリスト教会牧師
小川宣嗣



「そして、賛美の歌を歌ってから、みなオリーブ山へ
出かけて行った。」 マタイの福音書 26章30節

本年6月に開かれた福音讃美歌協会の定時総会において、6名の理事が立てられ、互選の結果、その中から新たな理事長として、この小さき者が選出されました。正会員三団体（日本同盟基督教団、日本福音キリスト教会連合、インマヌエル綜合伝道団）の中で、理事長担当者を出したことがないのがインマヌエルであったので、「今度は順番ですよ」という流れでした。しかし、秀でた霊性と能力、リーダーシップや発言力をもってこれまで理事長職を担われた高橋和義師（JECA）や安藤能成師（同盟）の後に立てられるなど、たまたま所属教団から理事の立場に置かれたその時点で青息吐息状態にあった乏しい者にとっては、正に血の気が引くような思いでした。器量不足を痛感する者にとっての頼りは、ただ主のあわれみと、賛美を愛してやまない会員諸氏の温かいお祈りとご鞭撻です。

教会福音讃美歌が生み出される際のマグマが吹き上がるような情熱や爆発的エネルギーは、それが実現した現在は穏やかなものとなっていますが、更なる浸透・活用を期しての情報提供、将来を見据えて新たな賛美を発掘する働き、会衆賛美の祝福への貢献を目指しての地道な活動など、今なお大切な働きが理事会や讃美歌委員会において継続されています。それらを支える財的が必要が満たされ続けることは、信仰の大きな挑戦です。ゲツセマネの祈り場、十字架と復活、永遠の栄光へと続く道を、賛美の歌を歌いつつ前進する仲間として、お祈りとご協力をお寄せいただければ幸いです。

■■■理事・監事改選のお知らせ■■■

2016年6月20日（月）に行われた福音讃美歌協会・第11回定時社員総会において、新しい理事と監事が選出されました。理事の任期は2年です。委ねられた務めと責任を果たすことができるように、皆様のお祈りをお願いいたします。

新理事、監事

理事長	小川宣嗣	イムヌエル綜合伝道団	聖宣神学院キリスト教会牧師
副理事長	中山信児	日本福音キリスト教会連合	菅生キリスト教会牧師
書記	飯田勝利	日本福音キリスト教会連合	結城福音キリスト教会牧師
会計	本間昭弘	日本同盟基督教団	横須賀中央教会
	土井康司	日本同盟基督教団	下北沢聖書教会
	寺村秀嗣	イムヌエル綜合伝道団	板橋教会牧師
監事	藤本侃也	日本福音キリスト教会連合	キリスト教朝顔教会

＊ 会 計 報 告 ＊

2016年4月-2016年9月

■収入の部■

科 目	2016年度予算	中間報告
会員負担金	1,060,000	788,000
(正会員)	(750,000)	(500,000)
(準会員)	(60,000)	(0)
(賛助会員)	(250,000)	(288,000)
自由献金	230,000	123,600
その他	200,000	170,622
当年度収入合計 (A)	1,490,000	1,082,222
前年度繰越金	472,208	472,208
収入合計 (B)	1,962,208	1,554,430

■支出の部■

科 目	2016年度予算	中間報告
理事会費	125,000	41,120
委員会費	350,000	74,649
人件費	360,000	180,000
事務費	300,000	179,703
ジャーナル発行費	460,000	213,024
カンファレンス開催費	200,000	114,313
総会開催費	20,000	10,038
JEA関係費	62,000	35,000
経常支出合計	1,877,000	847,847
特別支出 積立金	0	0
予備費	0	0
当年度支出合計 (C)	1,877,000	847,847
当年度収支差額 (A) - (C)	-387,000	234,375
繰越額/残高 (B) - (C)	85,208	706,583

【賛助会費納入者】 (2016年4月～2016年9月)

都賀キリスト教会、キリスト教朝顔教会、菅生キリスト教会、馬天キリスト教会、立川キリスト教会、聖宣神学院キリスト教会 (6教会)

刑部照美、齊藤眞木子、福田崇・愛子、稲垣博史・緋紗子、横倉知恵、大賀勝範、山村雅彦、藤本侃也、倉富隆子、熊谷邦男、寺村秀嗣、本間昭弘、小川宣嗣、樋口邦彦、石川岩夫、聖宣神学院キリスト教会婦人会 (16件)

【献金者】 (2016年4月～2016年9月)

武蔵台キリスト福音教会、たまプラーザキリスト教会、日本福音キリスト教会連合、泉キリスト教会、西川晴子 (5件)

お名前掲載を希望されない場合は、通信欄に匿名希望とお書きくださるか、メール (info@jeacs.org) で、その旨をお知らせください。

CD「教会福音讃美歌」Vol.1～4 ライフクリエイション 各巻2,700円(税込)

Vol.5 十字架と復活 2017年1月発売予定



Vol.1
礼拝を豊かに
2013/10発売

長く愛唱されている讃美歌、
コンテンポラリー作品、日本人による創作、黒人霊歌など
17曲をさまざまなスタイルで
収録。



Vol.3
降誕
2015/9発売

今まで日本で紹介され
なかったクリスマスの
讃美歌、馴染み深い讃
美歌の新しい翻訳など
17曲を収録。



Vol.2
新しい歌
2014/10発売

主に20世紀以降の新しい讃
美歌を、合唱、独唱、バン
ド演奏などさまざまなス
タイルで収録。



Vol.4
日本人が作った
神への讃美
2016/6発売

さまざまな場面で用い
ることのできる日本人
によるオリジナル讃美
歌を新旧交えて収録。

■福音讃美歌協会■会員募集■

- ◇会員の種別は次の三種類です。 正会員（教会、教団・教派等）、 準会員（超教派団体、グループ等）、 賛助会員（趣旨に賛同し支援してくださる教会、個人等）
- ◇賛助会員のお申し込みは、入会申込書をご請求いただき、必要事項をご記入の上、郵送またはFAXでお送りください。承認の後、年会費のお振込みにより入会が完了いたします。
- ◇正会員、準会員のお申し込みにつきましては、協会へ直接お問い合わせください。

福音讃美歌協会（JEACS） 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1 OCCビル 602号室
Tel.03-5341-6920 Fax.03-5341-6921（いのちのことば社出版事業部内）
ホームページ <http://jeacs.org/> メール info@jeacs.org

◆郵便振替口座◆

番号 00220-1-95127
名称 福音讃美歌協会

◆郵便貯金口座◆

番号 10500-82654721
名称 福音讃美歌協会

◆みずほ銀行 ユーカリが丘支店◆

普通預金 番号 1604668
名称 福音讃美歌協会

From Editor

編集後記

今回、インタビューにに応じてくださったスコット・シヨウさんは『教会福音讃美歌』CDの2、3、5巻で素晴らしい演奏をしてくださった立教大学諸聖徒礼拝堂聖歌隊の指揮者で、自転車やカメラなど多彩な趣味をお持ちです。今月号のカバー写真もシヨウさんの撮影による聖路加国際病院のパイプオルガンです。

さて、今年も文化庁による「国語に関する世論調査」の報告書が出版されました。その中で興味深かったのは「美しい日本語」についてのアンケートです。1778人の回答者のうち9割以上が、美しい日本語は「あると思う」と答えました。「美しい日本語」とはどのような言葉ですか、という問いには、6割以上が「思いやりのある言葉」を選んでいました。面白いと思ったのは、文化庁の用意した選択肢に、文法的な正確さや語義の正しさに関わるものがひとつも無かったことです。

少し前、ネットで話題になったエピソードがあります。レジェでバイトにしている留学生に「綺麗な日本語が使える様になつてから働け」と暴言を吐いた年配の客に、高校生の客が「めちゃくちゃ汚い日本語ですね」と返したというお話です。文化庁の世論調査も、日本語の「美しさ」が、正しさよりも「思いやり」にあることを裏付けてくれました。（な）